

第 19 回世界ビルメンテナンス大会報告書

『水、持続可能な清掃におけるその重要性』

“Water, and its importance in sustainable cleaning”



2012年10月10日（水）～13日（土）

ブラジル・クリチーバ

公益社団法人 全国ビルメンテナンス協会

■大会概要

- 1) 開催期間 2012年10月10日(水)～13日(土)
2) 開催場所 ブラジル・クリチーバ市(エキスポ・ウニメジ)



- 3) 大会テーマ 『水、持続可能な清掃におけるその重要性』

“Water, and its importance in sustainable cleaning”

- 4) 参加者数(主催者発表による大会参加登録者数)

16カ国 877名(うち日本31名) ※同伴者含む

ブラジル	745	韓国	4
日本	31	カナダ	2
オーストラリア	8	フランス	1
英国	7	イタリア	1
米国	34	オランダ	2
ドイツ	7	スイス	1
チリ	1	アルゼンチン	29
ニュージーランド	3	プエルト・リコ	1

■大会プログラム■

10月10日(水)

17:00 ~ 19:00 日本団結団パーティー（於；現地ブラジル料理レストラン）

20:00 ~ 22:30 オープニングセレモニー

10月11日(木)

10:00 ~ 17:00 セッション

20:00 ~ 22:30 ディバーシー社主催夕食会

10月12日(金)

10:00 ~ 17:00 セッション

20:00 ~ 22:30 ケルヒャー社主催夕食会

10月13日(土)

10:00 ~ 17:00 セッション

17:00 ~ 19:30 閉会式

20:00 ~ 22:30 次回開催国（米国）主催夕食会

【歓迎挨拶】



世界ビルサービス連盟

会長 アドナイ・アイレス・チ・アフーダ Adonai Aires de Arruda

2012年10月10～13日、3つのイベントが初めて一度に開催され、伝統と規模と活力が、緑豊かで組織されたたコスモポリタン都市である、クリチーバにおいて共に実現されます。

今大会では、それぞれが協同し、女性や、十分に学校教育を受けることができなかった労働者層の供給において、この業界の経済活動の重要性を世界に示そうとしています。業界の各事業者は、正規労働の雇用主として、社会的に認められ、資格付与や、先進技術といったものが、労働と環境

保護の点で、敬意をもたれています。業界は雇用適性力と税収入で目覚ましい結果を示している経済活動であり、あまり認知もされずインセンティブも少ないにも関わらず、年々成長しています。先進技術を通じて、汚染が削減され、飲料水の供給が人類にとって重要性を増す中で、科学技術は、健康へと転化されうるのです。

知識やネットワークを広げようとすることに価値を見出し、著明な講師の講演を聴き、パーティーやショーを楽しみたいという方は、共に学びあるいは教え合い、そして参加しましょう。



ブラジル協会 (FEBRAC)

会長 ヒカルド・コスタ・ガルシーア Ricardo Costa Garcia

ENEAC(ブラジル国内の清掃事業者のキャンペーン)が、最初の成功を収めてから、約20年経過しようとしています。我々は、今大会も素晴らしいものになることを保証します。続々と参加者が増加してきたことが、その証明であり、運営する側としては、あらゆる面で幸運に恵まれていることを感じます。

率直に申し上げます、ENEACの大会は、それ自身では、成功への道の半分でしかありません。我々は逐次、自然の美しさと、上質なサービスと品質を融合させるイベントの成功に向けて、着手してきました。我々は、専門分野の活動に関する見地からだけでなく、生活の質について見解を持つことができ、有益かつ貴重なノウハウを提供することができる、客観的に評価基準を持った講演者を選定しています。また、研修やレジャーの両面で、家族の存在や、貴重な相互交流の機会を十分に提供できるよう、配慮しています。

2012大会を開催するクリチーバは、ホスピタリティーにあふれた土地であり、自然の美しさもあります。組織委員会は、空前の参加者にのぼった今大会を盛り上げる努力を惜しみません。我々はあなたを待っています。そして、清掃メンテナンス業界の一大イベントとして、古い友人との再会や、新しい友好の機会を築き、アイデアの交換を望んでいます。

《日本国厚生労働副大臣メッセージ》

第19回世界ビルメンテナンス大会がここブラジル・クリチーバにおいて盛大に開催されることを心からお慶び申し上げます。また、私のメッセージを本日ここにお集まりの皆様、さらに世界各国でビルメンテナンスサービスに携わる方々にお伝えできることを大変光栄に存じます。

はじめに、昨年3月11日に発生した東日本大震災に際しては、各国、各団体から色々なお見舞い、励ましを受けました。ここに厚く御礼申し上げます。

昨今、世界経済のグローバル化、都市の発展、建築技術の進歩等に伴い、ビルの数は増え続け、その高層化、大規模化がより一層進んでいることは、決して日本国だけのことではないと思います。さらに、こうしたビルの中で活動する人の数も増加の一途をたどっております。

建築物内の快適かつ安全な環境を確保し、そこで活動する人々の健康を守るため、ビルメンテナンス業の果たすべき役割もますます重要になってきております。

日本国では、1970年にビルの衛生管理に関する法律が制定されて以来、ビルメンテナンスサービス業の方々のたゆまぬ御尽力により、ビルの環境衛生水準が良好に保たれてきております。

最近では、東日本大震災の後、原子力発電所の停止、点検に伴い、日本国内で地域ごとに目標を定めて節電を行っています。節電を図りつつ、ビル利用者やビルに勤務する人々の安全、衛生を確保していくという課題への対応を求められています。

この大会において、各国のビルメンテナンスサービスに携わる方々が一堂に会され、それぞれの知識や経験を共有し、また、友好の輪を拡げられることは、ビルメンテナンス業界の発展にとって、大変意義深い機会だと思います。

最後に、この大会のご成功とビルメンテナンス業界のますますのご発展、そしてお集まりの皆様の今後ますますの御活躍をお祈りし、私の挨拶といたします。

2012年10月

日本国 厚生労働副大臣 櫻井 充

メッセージは(財)ビル管理教育センター理事長・篠崎英夫氏によって読み上げられました。(写真；手前)



セッション

●講演タイトル

【10月11日】

- 9:30~10:00 「健康のための清掃」 アンドリュー・ラージ
- 10:00~11:00 「ファミリービジネスのすすめ」 クリス・クラックネル
- 11:30~12:30 「ディーセント・ジョブ(適切な業務)」 モアシル・ペレイラ
- 14:30~15:30 「労働省内の専門サービスの外注化問題」
ルイジ・F・F・ブスナルド
- 16:00~17:00 「効率的な感染コントロールによるリスク管理」
ペドロ・シディシーモ

【10月12日】

- 9:30~10:00 「健康のための清掃」(続き) アンドリュー・ラージ
- 10:00~11:00 「環境保護と持続可能性、清掃業は如何に対応するか」
スティーブン・P・アシュキン
- 11:30~12:30 「マルチサービス；ブラジル市場の成長と課題」 リー・ロボ
- 14:30~15:30 「21世紀における環境社会パラダイムと労働法」
ジェイムス・マリンズ
- 16:00~17:00 「持続可能な手法はいかに生産性を上げるか？」
マークス・アッシュ

【10月13日】

- 10:00~11:00 「清掃業における顧客視点、サービス業界の課題」
ジェイ・ガルシア
- 11:30~12:30 「官公庁との契約における事業者の権利」 エドガー・ギマリャエス
- 14:30~15:30 「効率的な契約交渉、作業計画、競争入札、マネジメント」
ルイジ・ベルナルド・チアス・コスタ
- 16:00~17:00 「究極的価値を持った清掃」 トニー・デ・アンドレア
- 17:00~17:30 閉会式

●講演メモ

10月10日～13日の会期で、第19回世界大会がブラジル・クリチーバにおいて開催されました。クリチーバ市は人口180万人、環境都市ということです。日本との時差は12時間、時計を修正する必要はありませんでした。それにしても、自宅からクリチーバのホテルまで正味36時間、ブラジルは日本の裏側ですから遠いのは当たり前です。しかし、この発言にはブラジルの方から異議が出されました。「日本がブラジルの裏側です」とのこと。

さて、今回の大会の底流に流れていたテーマはずばりサステナビリティです。ビルメンテナンスを業界として、企業として事業継続していくためには何を今為すべきなのか、時代背景を反映した企画となりました。

最初の講演は、「健康のための清掃」で社会の理解を求めようとする世界連盟の活動についての報告です。感染症予防など、社会的に大変重要な意味を持つ業として、しっかり定着させていくことによって継続をつかみ取ろうというわけであります。感染防止は感染の広がりによって被る経済的損失も防ぐわけですから、清掃が衛生的という意味からだけではなく、経済的リスクを減少させる意味からも極めて重要な行為であり、事業であると言わねばなりません。以下の通り、本件に関する世界連盟のこれまでの活動報告がなされました。

【背景】

2011年2月にオークランドで開催されたWFBSG（世界ビルサービス連盟）大会で、従来の医療機関環境の枠を超えた、公衆衛生促進における清掃の果たす役割について活発な議論がなされた。このことはとりわけ、SARS（重症急性呼吸器症候群）やインフルエンザといった流行病を背景として重要な議論となった。大会では、「健康のための清掃（Cleaning for Health）」の普及にあたって、効果的な清掃方法に関する情報を世界中の清掃産業に提供するというプロジェクトが採択された。

【これまでの進展】

大会以降、プロジェクトに関してはある程度の進展は見られたものの、期待されたほどの結果はもたらされなかった。これは資源の制約、度重なるインターン採用の問題が原因だった。現行の研究プログラムの進捗状況については、ウェブサイト www.cleaning-for-health.orgにてご確認いただけます。また、レポートの大半部分は日本語でもご覧いただけます。

このプロジェクトは世界保健機関（WHO）内にて引き続き奨励されており、本年5月にアムステルダムで開催されたISSAの展示会イベントにおいて、Didier Pittet

教授は手指の衛生や、感染予防問題に言及し、さらに9月26日ジュネーブでの開催予定の大会では、同教授は明示黙示を問わず、WHOに対しプロジェクトの支援要請をする。なお、WFBSOとWHOとの協力体制だが、Private Organizations for Patient Safety（民間患者安全組織）イニシアチブの加盟者の支援を受け、継続的に発展している。

【取り組むべき問題】

- ・非英語の研究ソース（特にドイツ語、スウェーデン語、アジア言語）、とりわけ「無塩素殺菌」製品の使用を科学的に正当化している国の言語からの主要データを収集すること
- ・研究報告全般の推敲およびこの新証拠による研究成果の考察
- ・新たな研究成果を反映させるための日常清掃における清掃仕様の策定
- ・www.cleaning-for-health.org ウェブサイトの更新
- ・世界各地のビルサービス事業者およびその他の関係当事者への新情報の普及

【次のステップ】

本大会の開催中、プロジェクトに対するより一層の支援を求めるイニシアチブに対し、課題遂行にあたっての資金提供が募られる。実習生の採用において期待通りの成果がこの度得られなかったことから、プロジェクトを推し進めるうえでコンサルティングが必要となり、これに対しWFBSO（世界ビルサービス連盟）会員の支援が不可欠となる。2013年度前半に、プロジェクトの成果およびオンラインリソースをまとめて公開することを新たな目標としている。

セッションでは、これ以外にも、環境問題と事業継続の問題とを結びつけて展開する講演がありました。水資源や温室効果ガス、紫外線問題など、環境問題は義務ではなくチャンスであり、多くのニッチを生み出しており、長期の視点からマーケティングを行う必要があると述べたのは、2日目・2番目の講演者アシュキン氏でした。そして、今大会の大きな柱であった、健康と清掃、その結びつきから生まれる清掃の社会的重要性、それに応えることによる事業継続の可能性、クリーニングが如何に大きな社会的価値をもっているかをまとめとして、アンドレア氏の最後の講演「究極的価値を持った清掃」が行われた。

それからもう一つのテーマである企業の継承、持続可能性については、クラックネル氏の「ファミリービジネスのすすめ」が興味をひきました。これについては日本の方が2枚も3枚も上手かもしれません。老舗旅館を例に出すまでもなく、ビルメンテナンス企業の中には、すでに3世代のファミリー経営を継続している会社も多く、珍しいことではありません。しかし、ヒト、モノ、カネをどうやって発展的に継続させ

ていくかは、大変な問題であり、100年以上も続く講演者（イギリス）のファミリー企業の話には興味を引くものがありました。ファミリー企業として継承されていくためには、まず資産の保全（相続）問題、法的に家族関係が切れる場合もあり、それへの対応も考慮しておかなければなりません。さらに、企業として拡大再生産をしていかなければ継続は確保できない。そのためには、家族だけの経営では成立し得ず、当然外部のリーダーシップを移入する必要があり、それとのバランスを取りながらでないと、ファミリー企業が成長しながら継承されていく可能性は失われていくのではないかと、家族経営には家族経営での難しさを述べました。

セッション第三の柱は、**ブラジルの労働市場や雇用の現状と対策の問題**でした。テーマは万国共通と思われるが、中身は相当の懸隔があり、ブラジルはブラジル特有の問題が多くあるようでした。

「ディーセント・ジョブ（適切な業務）」の講演をはじめ、ブラジル市場を扱ったいくつかの講演では、その特異な労働市場が報告されました。経営とユニオン（組合）と政府の間関係のなかで雇用問題が語られるのは、欧米と同様と思われるが、未だに児童労働や奴隷的労働などが話題になるほど、貧困の問題が背景にあるようです。教育・研修を施し、定着率を上げ、自尊心や仕事への誇りを持たせることの重要性が語られました。ただ、講演の中で、業務品質の向上に触れるところがあり、講師は「高い業務品質を提供するためには、労働条件や労働環境が改善され、生活の向上が図られた、従業員の質が一定程度高まらなければ、業務の品質は上がっていかない、業務の質は従事する者の生活の質に規定される」と語った。レベルの差はかなり大きいと思われるが、日本でも最近では貧困の問題が深刻に語られており、決して他人事ではない。一定の余裕ある生活者でなければ、業務品質への感覚を維持できなくなるのではないか、その懸念も、あながち絵空事ではないのかもしれない。その他、ブラジルの労働法や労働安全などについても、政府の方から問題が語られました。

もう一つ、セッションの柱であったのは、市場と経営、公的施設外注の問題でした。公的施設の外注化（マネジメントを含むアウトソーシング）がブラジルでも進行している模様で、年内の法律制定があるとのこと（詳しくは分かりませんが）、やはり安価な外注が相当に問題になっているようでありました。

かなり進んだ考え方を提起しているように見えたが、リー・ロボ氏（経営コンサルタント）は15,000社に上る企業との競合の中で、どのような差別化を図るのか、生産効率をどのようにして改善しているのか、そして結果としてコスト削減にどのように結びつけているのか、次々と問題を提起した上で、ビルの用途は多様であり、そ

れだけでなくひとつひとつが違うサービスを求めており、それに答えていくためには複眼的なマルチサービスの視点が必要であると説く。生産効率向上の話の中で、工程管理や品質管理、マネージャーの育成などとともに、女性のポテンシャルを活用すること、母や妻の視点を持った彼女たちのマネジメントは、決してないがしろにはできないと語った氏の論理には引きつけられるものがありました。

10月13日の二つの講演は、官庁施設の入札に絡む話でした。入札ルール（制度）の中での行政と事業者とのせめぎ合いのように見えるのですが、事業者が官庁との契約の中で、権利が侵され、契約が片務的になっていることなどの訴えが強く出ていました。インフレなどの金融的影響も大きいとのことでした。しかし、行政の方の支払の遅れや減額など、入札制度と言うよりも契約履行そのものの問題のようにも感じられ、テーマは我が国と同様としても内容には相当の違いを感じた次第です。

最後に、これは会議の中での話ではありませんが、現地のガイドさんや通訳さんたち、また、そのお知り合いなど、何人かの日系の方々とお会いしました。クリチーバで4万人を超える日系人が暮らしているそうですが、その社会は割合と狭く、何らかの形で情報が行き交い、お互いがお知り合いのようでした。

それにしても、現地で生まれ育った2世、3世の方々が日本語を流暢に話し、2つめの故郷（日本）に強い郷愁を抱いていることに驚きました。日系のある方から、初めての日本訪問の時、飛行機から見る日本の故郷の光景に涙したと聞いたとき、その親たちの血の滲むような労苦に想いを馳せ、深い感謝の念が心を震わせているのだろうと感動を覚えざるを得ませんでした。

【御礼】



2012年11月15日
公益社団法人 全国ビルメンテナンス協会
会長 一戸 隆男
(世界ビルサービス連盟 副会長)

このたびは、第19回世界ビルメンテナンス大会において、日本代表団にご参加いただき、誠にありがとうございます。日本団の皆様は31名にのぼり、ブラジルから最も遠い国ではありますが、参加者（登録者）の最も多い国として、最後のパーティーの席で表彰されました。

大会期間中の皆様方の絶大なるご協力により、今大会が成功裡に幕を閉じることができました。世界連盟もイギリスに本部を置き活動も活発化を見せています。開催国ブラジルはサッカーのワールドカップやオリンピックの開催を控えて、誠に活気のある国のように拝察致しました。多くの楽しい思い出を携え、皆様無事に帰国され、誠に喜ばしい限りでございます。心より感謝を申し上げます次第です。



<参加者名簿>

ご氏名	ご所属	都道府県
櫻井 和久	日興美装工業株式会社	北海道
関 智	第一商事株式会社	岩手県
一戸 隆男	興和ビルメンテナンス株式会社	東京都
一戸 千恵子	興和ビルメンテナンス株式会社	東京都
狩野 伸彌	太平ビルサービス株式会社	東京都
狩野 和子	太平ビルサービス株式会社	東京都
興膳 慶三	公益社団法人 全国ビルメンテナンス協会	東京都
堀口 弘	公益社団法人 全国ビルメンテナンス協会	東京都
鈴木 晴子	株式会社敬隣舎	東京都
篠崎 英夫	財団法人 ビル管理教育センター	東京都
坂本 善賢	財団法人 ビル管理教育センター	東京都
市川 忠司	東急ビルメンテナンス株式会社	東京都
諸岡 威之	アポロビルサービス株式会社	東京都
鷺見 博史	公益社団法人 東京ビルメンテナンス協会	東京都
大野 晴弘	公益社団法人 日本ファシリティマネジメント協会	東京都
天草 勝	株式会社 東日本環境アクセス	東京都
島本 浩	株式会社 東日本環境アクセス	東京都
渡邊 真	株式会社 東日本環境アクセス	東京都
鴻 義典	株式会社 ハリマビステム	神奈川県
宮田 吾郎	株式会社 ハリマビステム	神奈川県
入江 建久	新潟医療福祉大学	埼玉県
村田 茂行	東朋産業株式会社	群馬県
本多 清治	中日コプロ株式会社	愛知県
吉田 治伸	コニックス株式会社	愛知県
福岡 輝道	福佳株式会社	愛知県
久保 猛志	金沢工業大学	石川県
久保 国愛		石川県
三橋 源一	株式会社 三橋商会	大阪府
中村 哲	株式会社 四国環境管理センター	高知県
松延 洋一	九州ビルサービス株式会社	福岡県
金子 誠	株式会社 朝日ビルメンテナンス	福岡県

※順不同